

提 言

九州の物語を活用した観光交流促進に向けて

観光交流促進における九州の物語の活用に関する検討委員会

(略称：九州物語委員会)

はじめに

九州は遠い昔から国際性に富む豊かな歴史を持ち、小説、詩歌、映画、テレビドラマ、歴史・伝記、神話・民話、漫画・アニメといった物語の舞台となってきたが、それぞれのものが観光資源として扱われるものではなかった。

しかしながら、近年では、物語が地域やその魅力の情報発信のツールとして、また、旅のテーマ性を提供し、動機付けを助長する要素として大きな存在となりつつある。

「観光交流促進における九州の物語の活用に関する検討委員会」(略称「九州物語委員会」)では、こうした物語と観光をつなぐ状況の変化を受け止め、九州の物語を活かして、九州の魅力を情報発信するとともに、九州の地を訪れる新たな旅の提案や誘客の方策、観光客の受入のための連携や地域づくり等を進めるべく、九州の物語が観光に及ぼす意義とその活用方策等について検討を重ねてきた。

そして、ここに、「九州の物語を活用した観光交流促進に向けて」を提言するに至った。

今後、この提言が具体化されることにより、九州の物語が新たな観光資源となり、九州の観光交流促進に大きく貢献していくことを強く期待する。



1 物語の魅力、情報発信に関する提言

提言1 「魅力ある九州の物語百選」による情報発信と活用

本委員会では、九州各県関係者から収集した物語を整理し、小説、詩歌、映画、テレビドラマ、歴史・伝記、神話・民話、歌謡・民謡、漫画・アニメなど325の物語概要を作成し、これらについて、一般及び旅行業者を対象としたアンケート調査の結果を参考として、九州の魅力を発信し、今後の観光素材として活用し得るものとの観点から「魅力ある九州の物語百選」を選定した。

この「魅力ある九州の物語百選」を活用し、出版等を行い、全国に発信することで、九州への旅の興味や動機付けを図るとともに、地域においてもその地が有する物語、歴史等の価値を再確認し、新たな旅の提案や受入体制の整備等への取組みを促す必要がある。

また、さらに地域に眠る新たな物語、関連する物語や観光地の情報についてもその発掘を促す必要がある。

提言2 「九州物語ライブラリー」の創設

九州の物語をテーマ、ジャンル等の別に整理した上で、旅への入口とし、関連する物語や観光地情報（観光スポット、イベント等）へのリンクなどにより観光につなげる「九州物語ライブラリー」を創設するとともに、インターネット上で公開するシステムを構築することが必要である。

なお、ライブラリーの管理運営にあたっては、九州観光のポータルサイトであり、「うんちくの旅」等のテーマ性のある旅の提案を行っている九州観光推進機構が提供しているサイト等との連携を図り、ライブラリーの有効活用を図る必要がある。

提言3 物語を活用した新たな旅の提案

最近における旅行目的や旅行形態の変化に対応し、観光客の知的好奇心を満たすテーマ性を持った旅のニーズに応えるには、物語の持つ機能に着目し、新たな旅を、地域から、また、地域が連携して積極的に提案する必要がある。

地域の情報やその魅力を発信する物語の活用

「篤姫」の例にみるまでもなく、テレビ、映画、小説を通じ、物語の舞台としての地域の魅力が発信される場合が多い。そうした情報発信の機会を活用・連携し、舞台となる地域への旅の魅力を情報発信することにより、新たな旅の提案を行う必要がある。

その場合においては、真に魅力的な観光資源等を選別・工夫し、受入体制の整備などを図り、地域の魅力に持続性があり、リピーター化が期待できるものとするよう努力する必要がある。

観光資源の魅力や価値を高める物語の活用

「柳原白蓮」の物語の例にみるように、地域の史跡、街並み、自然等の観光資源の魅力や価値を高める物語が多くある。このため、地域の観光資源が有する物語性をもう一度再点検し、そうした物語がそれら観光資源の魅力を高めると認められる場合は、その物語の魅力と合わせ、効果的な情報発信と旅の提案を行う必要がある。

その場合、観光資源等においてもその物語性を説明、表示する等の受入体制を整備するとともに、地域における類似の物語を有する他の観光資源との連携にも考慮する必要がある。

旅のテーマとしての物語の活用

「万葉の旅」等物語を辿る旅であるとか、映画・ドラマのロケ地を巡る旅であるとか、観光資源をつなげ物語そのものをテーマとして辿る旅等が提案される。特に、今後、こだわりの旅への二

ーズの高まりが予想される中、消費行動の中心となる女性を対象とした旅の提案が必要である。

この場合において、物語の魅力を理解した旅の構成と観光資源、観光地が連携した受入体制の整備や情報発信等が必要となる。

受地側の取組みとしては、物語をもとに地域及び関係者の協議会等を設置し、受入体制の整備や着地型旅行商品の造成や発地側エージェント等への働きかけ、連携を図る必要がある。

また、発地側においては、関係地域と連携を図り、物語を活用したテーマ性のある新たな旅行の開拓に積極的に取り組むことが期待される。

学習、交流、体験型及び滞在型の旅行への物語の活用

物語の背景となる歴史、文化、物語の作者等に関して、より深く学び、体験し、地域の人と交流し、さらには、同じ趣旨を持った旅行者が広く情報交換できるような旅の提案を行う必要がある。

また、物語にまつわる地域に滞在し、物語の背景やうんちくを訪ねる滞在型の旅の提案を行う必要がある。

この場合、物語に関連した歴史、文化等についてのボランティアガイドやコンシェルジェの整備、文学館・博物館等でのイベント、学習会等の積極的な活用と情報提供、参加機会の確保等を図るとともに、利用・開催条件等について発地側との連携を図る必要がある。

また、滞在型旅行については、滞在地を中心とする関係周辺地域が連携し、旅行者へ滞在メニューや情報の提供等の受入体制の整備を図る必要がある。

また、地域の物語に対する旅行者ニーズを把握した上で、物語に関する情報の掘り起こしを行うワークショップ等を実施し、旅行者に新鮮な情報を提供し続ける仕組みを工夫する必要がある。

教育旅行等への物語の活用

教育旅行については、その取り巻く環境の変化から従来からの団体で観光対象を周遊する旅行から、小グループによるテーマ性のある旅を提供することが求められている。

物語の持つテーマ性は、地域の固有性や異文化に触れる機会を提供する、教育旅行に求められる題材として、非常に魅力あるも

のである。九州が持つ海外との交流の歴史、産業を含む近代化の歴史、豊かな文化芸術といった素材を活かし、九州ならではの教育旅行のテーマやメニューとして提案する必要がある。

また、団塊の世代を中心として、一般の研究サークル活動も盛んとなる状況があり、物語そのものや物語に関連するものが研究のテーマとなる場合がある。九州では、物語の対象となる歴史、文学等のみならず、その背景にある建築物や生活文化、食文化、まつり等に独自性がみられ、これらを調査・研究するための研究サークル的旅行の提案が必要である。

提言4 物語をテーマとした広域観光ルートの開発

物語が観光資源をつなげる役割を持つことは、提言3のとおりであるが、より広域に九州の物語の魅力情報を発信し、魅力的な旅の提案と受入体制の整備を図るためには、物語をもとに広域の観光ルートを設定し、関係者が一体となってその整備に取り組む必要がある。

平成19年度において、九州運輸局と九州地方整備局が九州独自の取り組みとして実施している「九州広域観光ルート支援モデル事業」では、「“恋の華”柳原白蓮と“炭坑王”伊藤伝右衛門のゆかりの地を巡る旅」がモデルルートとして選定されているが、これは「柳原白蓮と伊藤伝右衛門」の物語を一つのテーマとして巡る旅の提案である。

このように広く各地域が互いに連携してテーマに合わせた観光資源の磨き上げを行い、旅の行程で物語が自然に理解できるようにつなげ方を念頭に置き、物語をテーマとした旅や物語に関連する土地や建物、史跡、文学館、博物館、ロケセット、イベント等を観光素材とした広域観光ルートの開発を図る必要がある。

この場合、各地域のガイド、展示、イベント等の内容を吟味し、情報を過不足なく整理して、連続性を持たせた旅の提案を行うコンシェルジェが必要である。

3 物語に関する受入体制、地域づくりの提言

提言5 文学館・博物館等の連携や観光とのタイアップ

平成17年10月に開館した九州国立博物館は、展示物のスケールやレイアウトの創意工夫、活発なボランティア活動などが話題となり、これまで450万人の来館者を集めている。

地域の文学館や博物館等は、物語のテーマを有する重要な受入施設であり、来館者のニーズや施設の特性を踏まえつつ知的感動や学びを提供することが期待されている。その一方、資料等の収集やその散逸を防ぐという役割の面が強く、観光客を誘致する観光面との結びつきが弱いことが課題とされる場合がある。

このような文学館・博物館等が有する意義などを尊重しつつ、これらを中心とした新たな話題づくり等を積極的に進め、観光誘致とのタイアップを図り、物語をテーマとした旅行商品の造成など文学館・博物館等そのものが新たな観光資源として活用される必要がある。

そのため、文学館・博物館等がキュレーターの積極的な対応などにより、相互に、あるいは、地域の観光関係者と連携する場を設け、その観光資源としての機能を高めるべく積極的な情報交換を図る必要がある。

個別の取組みとしては、文学館・博物館等が所蔵する物語に関する旅行者への情報の発信・提供、文学館・博物館等相互による、あるいは、地域との連携による共通のテーマや物語に関する展示・イベント等による旅行者の誘致、旅行者の参加を可能とする学習会・イベント等の積極的な開催と観光関係者への情報発信が必要である。また、旅行者を受け入れるための道路案内板や駐車場の整備等を進めていくことが望まれる。

また、外国人観光客に対して、多言語化による案内や説明を実施する必要がある。

さらには、交通事業者とのタイアップによる周遊切符の発売、九州の文学館等を紹介した共通のホームページの開設等を検討することが望まれる。

提言6 まちづくりと一体となった物語の活用

物語のテーマに合わせて、様々な形で地域固有の観光資源を活用・整備していくためには、まちづくりと一体となった創意工夫あふれるハード・ソフトの整備・活用が必要である。

具体的なソフト整備としては、物語にちなんだ食メニューの開発、イベントの開催、ボランティアガイドの拡充等とともに、観光案内サービスの充実、マップコードによるカーナビゲーションシステムの構築等が必要である。

また、ハード整備としては、物語にちなむ記念碑等の設置、関連観光施設周辺の歩道の石畳化、電柱の地中化、多言語観光案内板の設置、ユニバーサルデザインを取り入れた歩きやすく安全な道路整備等への取組みが望まれる。

九州運輸局と九州地方整備局が九州独自の取組みとして実施している「九州広域観光ルート支援モデル事業」では、関係地域において「柳原白蓮と伊藤伝右衛門」をテーマとするまちづくりが計画されており、こうした取組みをモデルとして、広域ルートにおいても広い地域が連携したまちづくりへの取組みが望まれる。

提言7 観光ボランティアガイドの充実

観光ボランティアガイドは、物語の背景や意味、うんちくを語る魅力的な存在であり、旅行者と地域の交流を活発化するという点で意義あるところである。また、地域の物語の重要性を再認識するとともに、地域文化の継承、地域経済の発展、地域住民の生きがい等に寄与する役割も担っている。

しかしながら、九州の観光ボランティアガイドの現状は、観光客に十分な満足を与えることの出来る専門知識とホスピタリティーを兼ね備えた観光ガイドの数が、まだ十分であるとは言い難い。

こうした状況を踏まえ、団塊世代へのガイド活動への参加を呼びかけるリーフレットの作成及び普及講座の開催等によるガイド数の増加を図るとともに、呼称の変更等によるガイドの意欲向上のための施策や地域の物語を伝授する研修会等による質の向上によってガイドの

充実を図ることが必要である。また、一定の物語についての深い知識をもとにその物語の語り部としての専門ガイドを設け、そのガイドと一緒に物語に関する広域なルートを巡る旅の提案などが望まれる。

4 物語の情報発信等による誘致促進に関する提言

提言8 フィルムコミッションの活性化

九州には全国フィルム・コミッション連絡協議会に加盟している団体として11のフィルム・コミッションが存在し、個別の活動を展開している。

九州として地域が一体となって、受入体制の整備、情報発信の活性化を進めるため、「フィルム・コミッション九州協議会（仮称）」といった組織を創設することが必要である。

こうした協議会の活動を通じて、各フィルム・コミッションのロケーション情報の共有化、コーディネート情報の連携を図り、地域を越え、より情報発信力のある九州の広域を舞台とする物語について、映画化、テレビ放映への支援とその促進を図る必要がある。

また、情報発信の活性化を図るイベントとして、九州の物語をテーマとしたフィルムフェスティバル等の開催も望まれる。

提言9 海外・国内への情報発信・誘致宣伝活動

九州の物語への関心を集め、観光交流の集客力を高めるためには、行政、観光関係者、マスメディア等が連携し、九州の物語の特色を強く打ち出した情報発信、誘致宣伝活動やキャンペーン活動を推進し、旅行商品の造成につなげていくことが重要である。特に、九州への入込客が伸びを見せている東アジアをターゲットとした外国客誘致は九州が一つになって取り組むべき課題である。

九州は、古くからアジアとの交流の歴史を持ち、大航海時代以降においては西洋との交流の窓口ともなってきた。明治以降においては近代社会の実現や、あるいは産業近代化に大きな役割を果たしたところでもある。

このような九州の歴史や位置づけに基づく魅力ある物語を、九州を訪れる動機付けや目的として大いに活用すべきである。

平成20年のNHK大河ドラマ「篤姫」の放送開始により、地元鹿児島では、「篤姫」をテーマとしたキャンペーンの実施、観光ガイドの発足、資料館の開館等の取組みがなされているところである。

こうした取り組みをモデルとして、今後、情報発信が大きく期待されるドラマ・映画や歴史などに関わる重要な催事、周年記念事業等に着眼して、これらに関する物語を活用した観光についての情報発信、観光客誘致、関連旅行商品の造成等を連携し、一体的に行うことにより、その効果を高める必要がある。

特に、海外に対しては、九州としての強い情報発信が必要であり、各国、各地域での物語に対する意識・イメージ、情報発信力を検討し、九州観光推進機構を中核とするなど一体的に取り組む必要がある。

また、九州の小説、歴史、映画等の多言語化や翻訳等について、多面的な支援を行うことにより、九州の物語のアジアや世界への情報発信を促していくことが望まれる。

さらに、こうした物語の豊かさを九州のブランドイメージとして情報発信を効果的に進めていくため、統一的なキャッチフレーズ、ロゴ等の活用について検討を行う必要がある。